

事業所における自己評価総括表

○事業所名	札幌市かしわ学園		
○保護者評価実施期間	令和7年11月20日		～ 令和7年12月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 30名	(回答者数)	30名
○従業者評価実施期間	令和7年11月20日		～ 令和7年12月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 18名	(回答者数)	18名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月10日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小集団での発達支援を実践するためクラス担任制を導入している。個別支援の充実はもちろん、集団内での育ちを多角的に捉えている。	保護者がわが子のみならず、共に過ごす他児の成長を日常的に喜び合えるように担任を通じてクラス懇談や定期通信をとおして発信している。	地域社会における「共に育ち合う意識」の醸成と、心理的な孤立を防ぐペアレント・サポートの役割を果たせることを意識した行事や保護者交流を実施する。
2	多職種が在籍しているため、様々な視点から支援ができる。また複合庁舎のため医療からの助言などを支援に生かすことができ、子どもひとりひとりに応じた支援が行える体制である。	定期的な職員間の打ち合わせにより、子どもの成長発達と支援方法の検討を徹底して実施している。この継続的な協議を通じて、支援のさらなる充実を図る。	支援の質のさらなる向上を目指し、園内外の研修を通じて専門的な知識・技術を主体的に習得し、現場での実践に反映させ全体の支援スキルの底上げを図る。
3	日々の生活の中で子どもたちの相互作用を促す小集団での遊びを軸にプログラムを展開している。	個々の子どもの成長発達を踏まえつつ一人一人または各小集団にあったプログラムを実施したり、経験を積み重ねるために取って代わり継続的に同じプログラムを設けたりしている。また他者との関わりも意識できるような活動を工夫し、楽しみながら社会性や協調性が育まれるよう計画的な支援を行っている。	保護者の方へ、遊びの意図を専門的視点から説明し共通の認識がもてるように連絡帳や日々の会話、定期通信や「かしわスクール」等をとおして重層的な情報共有を努める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	クラス担任制での支援は、保護者の観点からも強みとしているが、園児ごとに利用回数に違いがあるため、継続的な関わりや経験の積み重ねが難しい場合がある。	令和6年度からインクルージョンを推進し、利用回数を保護者のご希望に合わせて設定するようにしたこと、保育園等との併行通園を利用する子どもが増えている。	クラス担任制による支援の継続性を大切にしながら、利用回数に差がある園児についても支援の質が保たれるよう、個別支援記録の内容を充実させ、職員間での情報共有を丁寧に行う。
2	家族支援・きょうだい支援については、通園児本人中心の支援を行っているが、保護者のニーズや家庭状況が多様であることから、支援の焦点をどこに置けば調整が必要な場面がある。	きょうだい同伴での参加を希望される場合、支援の時間が通園児本人以外に向きやすくなることが考えられるため、支援の目的の共有が必要である。	保護者のニーズや家庭状況を踏まえながらも、支援の優先順位を明確にし、家族全体を見据えながらも通園児本人の発達を第一に考えた支援の充実を図りつつきょうだい支援の取組も実施する。

3	ホームページについて、「魅力が分かりにくい」「内容が伝わりにくい」といった保護者からの意見があった。	札幌市公式ホームページ内に掲載しているため、掲載形式や表現に一定の制限があり、自由な構成やデザインが難しい状況にある。	制約のある中でも掲載内容を見直し、支援内容や事業所の特色がより伝わるよう、情報整理と表現の調整を行った。
---	--	---	--